

教科等研究会（中学校音楽部会）

令和3年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

イメージを伝え合い、協働する喜びを感じる音楽科授業
～主体的、対話的で深い学びを目指した授業づくりを通して～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
6/7	9名	嘉島中	8/2	嘉島中	福岡県教育庁 指導主事 中原真吾 氏	11/16	蘇陽中	蘇陽中 教諭 井手口哲子	中止		

3 研究の概要

(1) 研究の内容

○第1回研修会 6月7日 嘉島中学校

・部会テーマ決め

昨年に引き続き、主体的、対話的で深い学びの実現を目指して、感じ取ったイメージを基に協働する活動を充実させることで、協働する喜びを感じる音楽科授業を考えることにした。

特に、表現領域の創作分野についてICTを活用した授業実践について研修を行い、参観授業と授業研究会を行うこととした。

・研究組織づくり

近隣校ごとに三地区（益城地区、御船及び近隣、山都地区）に分け、連絡の徹底が取れるよう、また研究の協力体制が図れるようにした。

今年度は、蘇陽中学校の井手口教諭が研究授業を行うことに決まった。

○第2回研修会 8月2日 嘉島中学校（夏季研修会）

講演「音楽科授業におけるICTの活用について」

講師：福岡県教育庁教育振興部義務教育課指導主事 中原真吾 氏

・講義内容

①新学習指導要領が目指す音楽科で育成する資質・能力

②ICT活用の必要性

③日常の授業におけるICTの活用実践例

④ICT活用の可能性

講義を拝聴し、新学習指導要領が目指す音楽科で育成する資質・能力は、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力であることを改めて理解し、その三つの柱について学ぶことができた。

また、ICTソフトの使い方やICT活用の具体例等を紹介いただき、授業場面ごとに適したソフトがあること、またソフトごとの違いなどを学んだ。

さらに、ICT活用の可能性として、カスタマイズ性やポートフォリオの機能を高め、協働解決の機会を生むことを教えていただいた。また、個々の学び方に応じて今まで引き出すことのできなかつたものを引き出すことができることや、学習の過程や成果をデジタルだからこそ残す、振り返る、共有（児童生徒同士、教師、保護者とも）することができることを学んだ。

○第3回研修会 11月16日 蘇陽中学校

題材名「音のつながり方の特徴を生かして、メッセージが伝わる旋律をつくろう」

授業者：教諭 井手口哲子（山都町立蘇陽中学校）

(2) 成果と課題

「本年度の成果」

○ 第1回研修会では、これまでの授業実践を振り返り、できていることと、できていないことを出し合い、ICT活用と創作について研修を深めることとなった。そこで、ICT活用についての研修と授業研究会を行うこととなった。多くの意見が出され、研究目標を深める

ことができた。

- 第2回研修会では、福岡県教育庁教育振興部義務教育課指導主事の中原真吾氏に依頼し、ZOOMによる講演を行った。前半は、新学習指導要領が目指す音楽科で育成する資質・能力について講話を頂き、目指す資質・能力について改めて学ぶことができた。

後半は、ICT活用の実践例等を紹介いただき、たくさんのソフトを見聞きすることで、それぞれのソフトの特徴や活用上の利点を理解することができた。また、多くの参加者が、自分の授業に生かせるソフトを見つけることができた。

- 第3回研修会では、題材名「音のつながり方の特徴を生かして、メッセージが伝わる旋律をつくろう」で、蘇陽中学校の井手口哲子教諭が参観授業を行い、授業後に授業研究会を開いた。

「自分の伝えたい思い」に着目して、それを表現するためにメロディを工夫させるという視点は分かりやすく、生徒たちが活発な創作をすることにつながっていた。

ICTを様々な学習場面で活用し、グループの話し合いやクラス全体での共有等ができており、ICT活用の実践例としての学びが大きかった。

- 研究協議では、ICT活用の仕方について多くの質問が出された。また、創作活動のための基礎学習や教材づくりなど、参考となる考えを得ることができた。

学習構想案は、生徒の実態の記載の仕方「ワードクラウド」を使った可視化された表示がされており、非常に見やすく分かりやすいものであった。構想案の実践例が少ない中、貴重な資料となった。

- 第4回研修会は、コロナ禍で中止となった。そのため、郡内中学校音楽担当者にアンケートを取り、来年度の部会テーマや研修内容について意見を求め、積極的に意見を得ることができた。

「来年度への課題」

▼ 学習指導要領に沿った授業の構想をさらに深めるため、計画立案や評価のあり方、また学習構想案について研修を行う必要がある。

▼ ICT活用について互いの実践例を出し合うなどして、この研修会をICT活用のための人的ネットワークや環境をつくる場としたい。

▼ 創作について、生徒たちが互いの音楽を交流するなかで、さらに深め合える学習体験の場づくりをどのように生み出すのか、またそのための指導方法の工夫について検討する必要がある。

4 実践事例

題材名「音のつながり方の特徴を生かして、メッセージが伝わる旋律をつくろう」

授業者：教諭 井手口哲子（山都町立蘇陽中学校）

(1) 授業の概要

自分が作った歌詞を基に、言葉の抑揚や言葉のリズムを工夫して、メロディづくりを行った。生徒は自分のタブレットを活用し、旋律やリズムを確認したり、友達に聞いてもらって意見をもらったりして、よりよいメロディへと作り直していた。

また、出来上がったメロディはクラウドに上げて、大型テレビで写して教師の解説とともに共有できるなど、ICT活用が図られていた。



グループで話し合いながら創作をしている様子



生徒の作品を大型テレビに映し説明している様子

(2) 学習構想案

第1学年 中学校音楽科 学習構想案

日時 令和3年11月16日(火) 第5校時

場所 音楽室

指導者 教諭 井手口 哲子



1 題材構想

題材名	音のつながり方の特徴を生かして、メッセージが伝わる旋律をつくろう		
題材の目標	(1) 音のつながり方の特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律を作るために必要な、音の選択やリズムなどの技能を身に付けること。〈知識及び技能〉A(3)イ(ア)・ウ (2) 創作表現にかかわる技能を得たり生かしたりしながら、メッセージが伝わるように創作表現を創意工夫すること。〈思考力、判断力、表現力等〉A(3)ア (3) 旋律と言葉の関係や、音や音のつながり方に関心を持ち、メッセージにあった音楽について主体的・協働的に創作の学習に取り組もうとすること。〈学びに向かう力、人間性等〉		
題材の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①音のつながり方の特徴を、伝えたいメッセージや言葉の抑揚と関わらせて理解している。 ②創意工夫を生かした表現で、音楽づくりに必要な、条件に沿った音楽の選択や組み合わせなどの技能を身に付け、創作で表している。	①旋律、リズム、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、伝えたいメッセージを伝えるためにどのように音楽を作るかについて、思いや意図をもっている。	①旋律と言葉の関係や、音や音のつながり方によって生み出される特質や雰囲気に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。
題材終了時の生徒の姿 (題材のゴールの姿・期待される姿)			
伝えたいメッセージを込めた音楽作りを通して、音や音のつながり方の特徴を感じ取り、生活の中の音楽も思いを込めたり、背景が関係していたりすることに気付く生徒。			
題材を通した学習課題		本題材で働かせる見方・考え方	
メッセージが伝わる音楽はどのようにして作られているだろうか。		音楽に対する感性を働かせ、旋律、リズム、速度等をそれらの働きの視点で捉え、自己のイメージや感情などと関連付けること。	
指導計画と評価計画 (5時間取扱い ※本時4/5)			
課程	時間	学習活動(○)・問い(□)	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
1	1	<input type="checkbox"/> 曲はどのようにして作られているのだろうか <input type="checkbox"/> 音楽作りで自分自身が悩んだことから、音楽作りに大切な力とは何かを考える。 <input type="checkbox"/> 「赤とんぼ」の学習を想起し、音楽がイントネーションをもとに作られていることに気付く。 <input type="checkbox"/> 自分の名前前のイントネーションを考え、4分の4拍子2小節の音楽にする。	【態①】 ワークシート・観察 【知①】 ワークシート
2	2	<input type="checkbox"/> 伝えたいメッセージを音楽で表すにはどうすればよいだろうか <input type="checkbox"/> 今自分が伝えたいメッセージを考える。 <input type="checkbox"/> 伝えたいメッセージが伝わる音楽にするために、旋律、リズム、速度などをどのように構成するかくま手チャートにまとめる。 <input type="checkbox"/> くま手チャートをもとに4分の4拍子8小節のリズム創作を行う。 <input type="checkbox"/> 自分のイメージに合うコード進行を選択し、メロディを創作する。	【態①】 ワークシート・観察 【思①】 ワークシート・発言 ★【知①】 ワークシート・楽譜 ○音のつながり方の特徴と、伝えたいメッセージや言葉の抑揚の関わりについて理解し、記譜している。
3	※ 本時	<input type="checkbox"/> より思いが伝わる音楽にするには、どう工夫すればよいだろうか <input type="checkbox"/> 創作した音楽がよりよくなるためにはどうすればよいか、グループでアドバイスしあう。(※本時) <input type="checkbox"/> 旋律の動きや速度などを調整し、よりよい音楽になるように曲を練る。 <input type="checkbox"/> 創作した音楽を歌唱で表現する。	★【思①】 ワークシート・発言 <input type="checkbox"/> 自分の伝えたいメッセージを音楽で表すために旋律、リズム、速度を工夫し、どのような音楽を作るかについて思いや意図をもっている。 ★【技②】 楽譜・歌唱 <input type="checkbox"/> 自分のイメージに合う音楽にするために創意工夫し、条件に沿った音の選択や音のつながり方についての技能を身に付け、楽譜や歌唱に表せているか。 ★【態①】 ワークシート・観察 <input type="checkbox"/> 旋律と言葉の関係や、音や音のつながり方の特徴に関心を持ち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組んでいるか。

2 題材における系統及び生徒の実態（省略）

3 指導に当たっての留意点

本校研究テーマ「主体的に学び、粘り強く学習に取り組む生徒の育成」を実現するために、次の2点を重視する。

- ① 生徒が自ら取り組みたいと思う学習課題の設定
自分の名前や自分が今伝えたいことをテーマにして音楽にすることで、生徒が取り組みやすく主体的に活動できるように工夫する。
- ② 主体的に取り組む時間、生徒自らが答えを導き出す時間の確保
曲のイメージを持つ場面、曲を練り上げる場面などで班活動を取り入れ、互いに意見を出し合いながら曲を作らせる。

4 本時の学習

(1) 目標 自分の伝えたいメッセージに合う音楽づくりについて、旋律やリズムに着目して音楽を練り直す活動を通して、伝えたいメッセージを伝えるためにどのように音楽を作るかについて、思いや意図をもち、創作表現を工夫する。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	5分	<p>1 音楽づくりに必要なことは何か考える ◇曲には作曲者の思いが込められていることに気づく</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">【めあて】自分の思いが伝わる音楽を作り上げよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">【学習課題】 自分の思いが伝わる作品にするためには、さらにどのような工夫をすればよいだろう</div>	<p>○前時までの学びを振り返り、創作活動には思いを持つことが必要であることに気づかせる。</p>
展開	38分	<p>2 自分の作った音楽について再検討する ①よりよい音楽にするために、どのように工夫すればよいか考える。 ◇音高や、リズムを変えればよいと思う。 ②順次進行や跳躍進行、上行形や下行形など様々に変えることで雰囲気も変わること に気づく。 ③グループで試しながら、音楽表現について考える。 ◇順次進行にした方が滑らかな感じがする。 ◇訴えたいところは音高が高い方がいい。</p> <p>3 学級全体で、班から一人ずつ発表し、音楽表現の工夫について共有する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin: 5px 0;">【期待される学びの姿】 感じ取った曲想や音楽の構造、歌詞の内容との関わりなどを基に、歌い試しながら、どのように工夫して歌うかについて、思いや意図を書いている。</div>	<p>(課題解決に向けた見通しをもつ手立て) ○例示した曲を様々に変化させることで、旋律の動きやリズムによって印象が変わることに気づかせる。</p> <p>【到達していない生徒への手立て】 ○自分が考えた音楽を形作っている要素を振り返り、その要素にあった旋律づくりをするように促す。 ○タブレットで演奏をさせることで、自分のイメージに合っているか確認させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">【具体の評価規準】思① ○自分の伝えたいメッセージを音楽で表すために旋律、リズムを工夫し、どのような音楽を作るかについて思いや意図をもっている。 (方法：ワークシート・発言)</div>
終末	7分	<p>4 学習したことを振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">【まとめ】・自分の伝えたいメッセージが伝わる音楽にするためには、旋律やリズム、速度などを工夫すればより思いが伝わるようになる。</div> <p>◇自分が思うような音楽にするためには、速度や強弱はどうしようか。</p> <p>5 学びの木を記入する。</p>	